



## 第3回 多摩区区民会議

日 時：平成23年2月16日(水)  
18時～20時  
場 所：多摩区役所11階会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 事

- (1) 部会での審議状況と意見交換について
- ・「環境・観光部会」 報告者 戸高部会長 (18:05～18:35)
  - ・「交通安全部会」 報告者 原田部会長 (18:35～19:05)
  - ・「コミュニティ交流促進部会」 報告者 大津部会長  
(19:05～19:35)
- (2) 区民会議フォーラムの検討について 報告者 事務局  
(19:35～19:50)

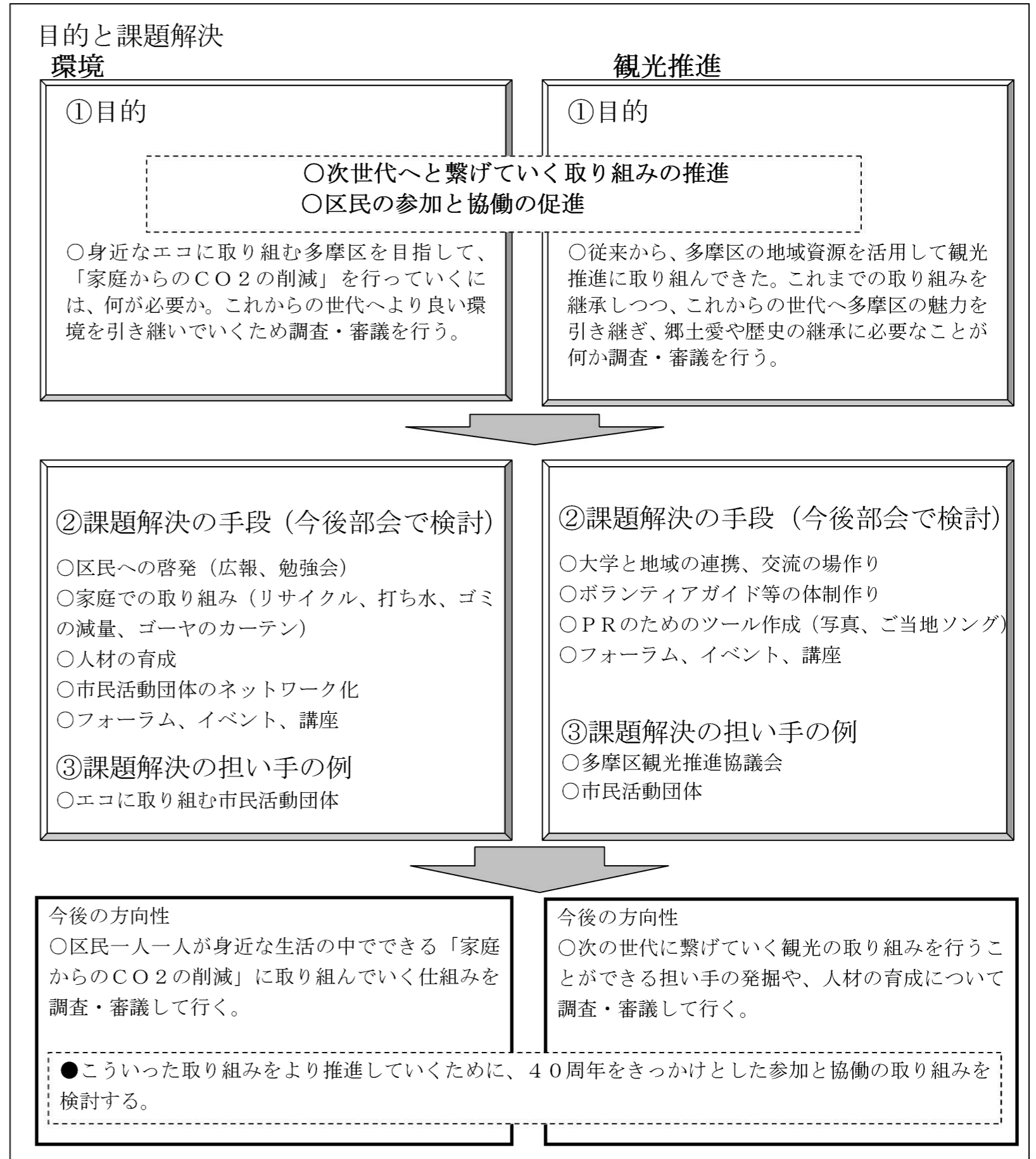
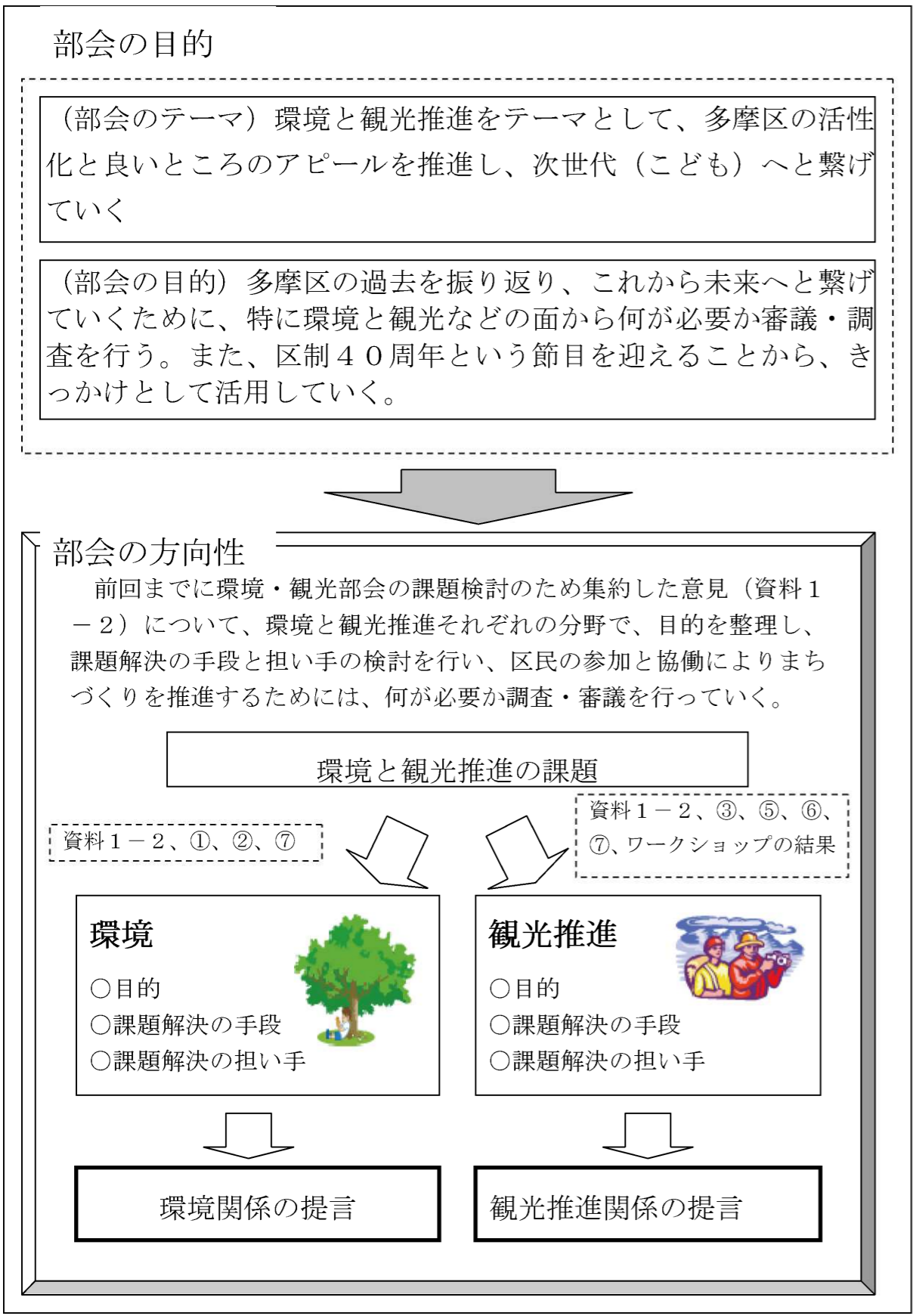
#### 3 その他

- ・区民会議ニュース（中間報告特集号）について
- ・区民会議交流会の開催について
- ・今後のスケジュールについて（次回日程について）  
(19:50～20:00)

#### 4 閉 会

- 資料1-1 環境・観光部会の審議について  
資料1-2 環境・観光部会検討シート  
資料1-3 多摩区まちづくりワークショップの実施結果について  
資料2-1 交通安全部会の審議について  
資料2-2 多摩警察署管内平成22年1月～10月末における自転車事故発生状況  
資料2-3 知っていますか？自転車の新しい通行ルール  
資料3-1 コミュニティ交流促進部会の審議について  
資料3-2 区内既存施設コミュニティ活用のための分析シート  
資料3-3 多摩区コミュニティ施設マップ  
資料3-4 区内学校施設開放一覧  
資料4 区民会議フォーラムの検討について  
資料5 区民会議ニュース（中間報告特集号）の作成について  
資料6 今後のスケジュールについて  
資料 区民会議交流会の開催について（ご案内）  
区民会議交流会開催  
かわさき自治推進フォーラム2011開催  
その他資料 ・川崎市多摩スポーツセンター開館 ・3大学連携フェア開催  
・出前たまサロン ・知りたい！いろんな町の「まちおこし」

# 環境・観光部会の審議について



# 第3期多摩区区民会議 環境・観光部会検討シート

資料1-2

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
①地球環境推進	<p>マイバックや緑のカーテンなど、地球環境問題を身近なところから考えていく。他の区では、第1期区民会議(幸、中原、高津)第2期区民会議(川崎、高津、麻生)で行っている。</p> <p>1.地球環境をみんなで守ろう、理解しよう！ 2、身近でできる温暖化防止の取り組みを考えよう。 3、環境のまちづくりを支援できる体制を作ろう。</p>	<p>「環境のまちづくり」と組み合わせよう取り組みかを考える。環境教育の対象を生徒とするならば教育委員会、区地域教育会議と共に取り組む。</p> <p>1、普及活動のための認識向上を図る 2、個人、家庭、職場、地域で取り組めるものは何か 3、エコ推進強化月間等を設けて、ポスターでよびかけたり、勉強会を開催。 例、市環境局地球環境推進室等と連携を図り視察見学をしたりして取り組み方を学ぶ。 ○省エネグループ ○ソーラーチーム ○グリーンコンシューマーグループ</p>	<p>☆ひとり、ひとり小さなことからでも出来ることからまず実行しよう。 エコパック、ごみの減量、資源物の分別収集の促進、リサイクル、省エネ、等。 ☆省エネや環境にやさしい取り組みの工夫をしている個人、グループ、学校、地域等からその工夫と成果を募り発表の場を設ける。 ☆エコ料理教室の開催等などの取り組み、関心を</p>	
②環境まちづくり	<p>環境活動の活性化と環境教育の充実を図る H22～H23で、多摩区における資源循環の環境や課題の把握及び区内の市民活動状況を分析し、H23に活性化のための提言をまとめる。</p>	<p>大人も子どもも身近にできる事を学び、体験できる機会をつくる。継続していくために、市民と区・市がそれぞれの役割を確認して共に取り組む(まちづくり協議会・活動団体・区と市それぞれの役割分担を明らかにして取り組む)</p> <p>多摩区が「エネルギーの自立」を目指し、モデル地域になる。ソーラー、風力、水力、地熱発電を行い、クリーンな自然エネルギー(多摩区がクリーンなイメージになる)を作り、各家庭に供給(現状の何割かを供給する)。各家庭がソーラー発電等を行う場合に、補助金を出すことにより、エネルギーの自立を促進していく。各家庭の余った電力は区が買い取り、区の余った電力も東京電力へ売電することにより、多摩区の資金を作ることができる。その資金を他の事業に充てることにより、税金の削減へと繋げていく。多摩区には竹林が多数あり、その資源を有効活用できないか検討してみる。例えば竹炭にして安価で販売する。ゴミの削減を実施する。生ゴミコンポストを推奨して各家庭の生ゴミを減らすことにより、焼却施設の延命、焼却処理をする際のエネルギーコストを抑える。</p> <p>地域単位での美化運動を定期化する。(市の統一美化活動の小規模定着化、大人も子どもも参加) 地産地消の特産品作り、提唱(JA、生産組合との協議、ノラボウの高橋先生等地産農家と料理研究家、商店会等、合同検討会設置)</p>	<p>実践・活動している個人、グループ、団体が発表し、参加・体験できる機会、場をつくる。</p> <p>「エネルギーの自立」を提言し、『モデル地域』になることにより、クリーンな多摩区としてアピールしていく。そのことにより、国・市・企業から補助を募りインフラの整備を行う。転籍してくる人に、「多摩区のエネルギー事業」を説明し、事業内容を理解してもらい、個々の多摩区に対する意識を向上させる。</p>	<p>子供達が遊び・学ぶ場を興味を持った事から、調査、見学など自主的な取り組みをして、発表し、互いに共有できる機会をつくる。親子企画、学校や地域(子ども会や活動グループ)での取り組みなど、大人と子どもが一緒に取り組める機会を作り、広げる。継続していくための区として長・中期の取組みをする。</p> <p>「クリーンな多摩区に住んでいる」という意識が芽生え、個々にゴミの減量や省エネなどに積極的に取り組むようになっていきます。税金が安くなることにより、住民負担が減って、多摩区から出て行く人が減るのではないのでしょうか。多摩区に住みたい人も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>小中高校、PTAへの報告会実施、チラシ配布 町ぐるみ、家族ぐるみでの資源物の大切さを伝える運動を展開</p>

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
③藤子・F不二雄ミュージアム開館に伴う商店街などの活性化	商店街連合会や、稲田多摩川観光協会など多摩区観光推進協議会が、地元や近隣から集中するミュージアムへの客層への諸サービス体制を作り、PRの方策を検討、実施していく。年内に、検討、立案し、来秋を目処に継続的に具体化する。	<p>ここで取り上げる「商店街」とは多摩区全体か。藤子・F不二雄ミュージアムの開館は、多摩区の実在を高めるが全商店街の活性化は無理と思う。交通アクセスが整うと商店街というより駅前だけとなる。商店街の活性化は、商店街自身がその気にならないと活性化は無理と考える</p>	<p>区民会議として取り上げるテーマに不適と考えます。</p>	
			<p>以前の環境・観光部会で「F.F.Fへのアクセスロード整備」の取組みで、一定の方向付けがなされており、それらの施策の中で既に、商店街の活性化に繋がる部分があるので、それを活用していけばよい。</p>	<p>多数の来館者が予想されるが、道路交通上の混乱で事故が起きないように、地元としても充分、藤子プロや川崎市と協調して支援していきたい。</p>
		<p>諸サービス、チェーン店の募集 藤子・F不二雄ミュージアム割引入場券取扱店の設置、キャラクター人形の配置店を設ける。</p>	<p>マップの作成 スタンプラリー、記念品</p>	<p>絵画及び作文コンテスト開催 何でも</p>
		<p>似たようなミュージアム(例えば三鷹にある「ジブリ美術館」など)に赴き、そのミュージアムが街とどのような関係かを調査する。アクセス道路の整備やシャトルバスの配備を考えているが、それだけではなく、商店街や街中にミュージアムに関連するキャラクター配置(例えばゲゲゲの鬼太郎ストリートなど)をし、QRコードを利用して、携帯電話やスマートフォンにてドラえもんの秘密道具などが収集できるなどツール利用を検討する。シャトルバスを利用してしまふと、商店街や街の活性化に繋がらないと思う。駅⇄ミュージアムになってしまい、来場者が</p>	<p>駅、行政の各施設、学校、ミュージアムにアクセスロードなどの案内を置く。ミュージアムや多摩区のホームページに掲載する。行政側とミュージアム側が一体となって盛り上げている様子を雑誌やメディアに取り上げてもらい、アピールする。(まずは身近なところで、区民が目にする県のたより・市政だより・かわさき・議会かわさき・多摩人、メディアとしてはFM川崎・FM横浜など。</p>	<p>街を歩いて会場へ行ってもらうためには、交通の問題、街の治安が挙げられると思う。①交通の問題 交通事故が起きないように、川崎市・多摩区・藤子プロ・警察との連携を密に行う。②アクセスロードの整備や仮にキャラクターを配置しても、街の治安が悪いと誰も歩かなくなってしまう。こちらも①と同じく各関連組織との連携が大切だと思う。小学校を中心にミュージアムの勉強(社会科見学)を実施して、興味を抱かせることにより、次世代へ繋げられればよいと思う</p>
	<p>多摩区のアピールポイントは、多摩川と生田緑地だと思う。藤子・F不二雄ミュージアム開館に伴って生田緑地周辺がかなり整備されるが、その周辺の活性化だけでなく、多摩川と区画整理事業の登戸・遊園、それに生田緑地と大きく人が回遊できる空間をつくっていくと将来像を持って取り組んでいったらどうか。イルミネーションでライトアップなど。②「B級グルメ」に取り組んだらどうか。例えば、最近多摩川の水質が改善され、かなりの鮎の遡航が見られるといわれている。そこで鮎料理をメインにした「B級グルメ」はどうか。観光資源として「やな漁」などができれば。③各駅前に「ミニコンサート」ができるような広場があれば。</p>			

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
④二ヶ領400年記念へ向けての諸イベントの取り組み	宿河原桜まつり、妙楽寺あじさいまつり、中野島音楽祭、多摩区民祭など関連する諸イベントを通して、町会連合会、商店街連合会、稲田多摩川観光協会などが、多摩川から取水して、長い間、恩恵に与ってきた二ヶ領用水の保全、改良をPRしていく。	400周年記念イベントは既に実行委員会を設けて取り組まれている。「源流のまち多摩区展」等生活に密接した二ヶ領用水としての保全、改良をテーマに取り上げることは意味がある。	二ヶ領用水を学び、日常生活に密接な関係がある二ヶ領用水となるような保全策を区民の意見を聞きながらまとめる	次世代も二ヶ領用水を必要とするようにすること
			この取組みで、今期部会の新テーマとなった「多摩区40周年記念」での講演会や講座やフォーラムなどに活かしていけると思う。	特に地元の子供達は二ヶ領の諸イベントに参加することなどで、先祖達の努力と苦勞を知る良いきっかけになったのでは。
		400周年記念イベントは既に実行委員会を設けて取り組まれている。「源流のまち多摩区展」等生活に密接した二ヶ領用水としての保全、改良をテーマに取り上げることは意味がある。	二ヶ領用水を学び、日常生活に密接な関係がある二ヶ領用水となるような保全策を区民の意見を聞きながらまとめる	次世代も二ヶ領用水を必要とするようにすること

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
⑤写真による心のふるさとづくり (私の多摩100選)	区内の心に残る風景、家族や友人と撮った写真など一枚の写真に多くの物語があります。その思い出と写真を多摩区民から募集し、冊子にまとめ、販売します。スケジュールは22年～23年に募集し、23年に冊子を作成します。応募が多ければシリーズ化も検討。	まちづくり協議会のプロジェクトのテーマと考える。		
			区政40周年記念事業の一環に、「多摩区のうた」とタイアップして応募すればより効果的。	
		約1年(四季)かけて区民から写真と思いを募集。それらを例えば季節別、地区別、年代別などに編集。手ごろな価格を設定し、区民に販売。	1.写真展を開く 2. 応募された地点を結んで散歩コースをつくる 3. 観光地図に記入	1. 観光名所として残す(多摩区観光推進協議会と連携)
		漠然と幅広く募集するのもよいが、テーマを決めて応募を願ってはどうか。・昔の写真・今の風景・樹木・子どもたち・イベント・花・川・ものづくり・自由題など	シリーズ化を前提に募集するほうが区民の関心が得られるのではないか	学校生活特集やコンテストをすることで小・中学生の関心を集められるかもしれない
		多摩区内で撮影された写真を募集して冊子・絵葉書・カレンダーにして販売する。選ばれた写真がどこで撮られたものなのか、その場所を巡るツアーを開催する。	人が集まる場所(地域のお店)に展示する。作成した冊子・絵葉書・カレンダーを多摩区の各書店にて販売する。	カレンダー化するため、毎年この企画を開催する。

課題	概要	検討の視点・アイデア		
		活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
⑥多摩区の歌	多摩区の歌を通じて、多摩区の良いところをPRする。 多摩区の歌を通じて区民の交流を図る。	多摩区の歌として「多摩川音頭」があるという意見も有る。また、多摩区で歌いつがれている歌を歴史と合わせて検証することも必要と思う。いずれにしてもまちづくり協議会で取り上げるテーマと思う。		
		区政40周年の記念事業の一環に、子どもから大人、区民みんなが親しめる歌「多摩区のうた」を区民から応募してつくる。すでに川崎市は「音楽のまちかわさき」、多摩区では「アトリウムコンサート」等が定着し、音楽を通して地域コミュニティの活性に成果が上がっています。”水と緑と学び(3大学)、伝統ある文化の街”のイメージを盛り込んだ歌をつくり、うたを通して区民のコミュニケーションを図り、多摩区の活性化と観光情報発信の促進につなげたい。応募に関して選考委員会(実行委員会)を立ち上げ(人材は多摩区で音楽に携わっている人)		区内の小、中、高校にはレベルの高い活躍をされてる合唱部、合奏部、大人のコーラスグループが多数あります。それらの人々から、多くの区民に歌い継がれ、伝統ある”多摩川音頭”と共に普及に努力し、CDを作成し幅ひろく区民に浸透、愛唱につなげる。
		子どもから大人まで幅広い世代に親しまれる歌をつくろう！！をスローガンに、詞、曲を公募	懸賞を出す。お金に限らず区の景品でも良いのでは。	小・中学校の行事において極力、校歌として歌ってもらう
	多摩区在住のアーティストを募り、多摩区の歌のオーディションを開催する。(各アーティストに多摩区の歌を作成してもらい、オーディションする。	チラシやポスターを作成して、各商店街・駅・行政関連施設・学校(若い世代の発表の場として)に掲示する。	①小学校の音楽の授業で取り上げてもらおう ②多摩区にある各駅で流してもらおう ③多摩区にある各駅の発車ベルに流してもらおう ④各商店街で流してもらおう ⑤行政が管轄する建物で流してもらおう ⑥行政が管轄するホームページのBGMにする ⑦多摩区内のイベントやお祭りで流してもらおう	

	課題	概要	検討の視点・アイデア		
			活性化するためにはどうすれば良いか	アピールするためにはどうすれば良いか	次世代に繋げるためにはどうすれば良いか
⑦ 新規	40周年記念フォーラム	当部会だけでなく、他の2部会と一緒に、「こんな多摩区であったら」(仮題)と題して、老若男女が参加できる幅広い議論と展示会を開催。	多摩区内の活動団体に参加を呼びかける。3大学や小中高校の協力も得てまじめさと祭り気分の混在した催しとする (例)区民祭で何らかの取り組み (例)文化協会の発表等で何らかの取り組み (例)観光推進協会で何らかの取り組み (例)3大学にて何らかの取り組み	一般の人たちは勿論、生徒や学生が参加しやすいように、春休みや土、日曜日を選ぶ。	小規模にして毎年開催(色々な世代から多摩区の将来を見つめて)40周年で行った行事について、冊子の作成
	40周年関連諸行事	H24年・多摩区40周年を迎えるにあたり、多摩区全体の歴史を振り返ると共にこれを契機にして、地域特性としての水と緑をメインとした多摩区全体の魅力発信と魅力づくりを更に発展させていく諸行事を設定する。	できるだけ具体的に挙げてみると、例えば ア、「多摩区の歴史を振り返る講演」(例:講師2名、約2時間、ホールか大会議室) イ、多摩区の自然、文化、芸術などの」の講座(例:各2時間、5回程、各回講師) ウ、多摩川、二ヶ領用水、五反田川などの更なる環境美化活動、生田緑地の緑化保全活動、或いは岡本太郎美術館、日本民家園、青少年科学館、ばら苑、新設の藤子・F・不二雄ミュージアムなど“生田緑地ワールド”諸施設の更なる整備などに関する発表会など	市政だより、市民館だより、地域ミニコミ紙、更には町会回覧板、町会掲示板などを利用し、予算上許されれば全家庭へ“40周年関連行事のお知らせ”を配布する。最近の転入者や現役退職直後のシニア世代の方達へも充分PRしたいと思う	“お知らせ”の配布や諸関連施設でのPRが行き届けば、小・中・高などの若年層にも次代を担う意識や郷土愛を育む芽生えが期待できるかも知れない。
	40周年記念を迎えて多摩区をふるさととして再認識するイベントの実施	区内のお祭り、郷土芸能を動員して大きなイベントを実施(小・中・高の音楽パレード、太鼓・神輿・踊りなどのパレード)	市制70周年パレード、セレモニーの経験を活かし、幅広い参加を促す。(町内単位での企画も有意義か)	区内各団体、学校、町連毎に企画コンテストを検討	子どもも大人もさんかして楽しいイベントであったとうえつける。
	多摩区在住の世帯にアンケートを実施することにより、現在の多摩区を把握し、将来の多摩区へと繋げていく		各世帯に簡単なアンケートを実施する。①なぜ多摩区にすんでいるのか? ②多摩区に足りないものは?	区民の声が実際に何らかの形になるようにする。	アンケート結果を集計することにより、この先の多摩区として、どんな事業をしていけばよいのかが多少見えてくると思う。区民の意見を吸い上げて、今後の区民会議等で議論していく。